

127 都上りの歌。ソロモンによる

127:1 主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなし。主が町を守るのでなければ、守る者の見張りはむなし。

127:2 あなたがたが早く起きるのも、おそく休むのも、辛苦の糧を食べるのも、それはむなし。主はその愛する者には、眠っている間に、このように備えてくださる。

127:3 見よ。子どもたちは主の賜物、胎の実は報酬である。

127:4 若い時の子らはまさに勇士の手にある矢のようだ。

127:5 幸いなことよ。矢筒をその矢で満たしている人は。彼らは、門で敵と語る時にも、恥を見ることがない。

ソロモンは王宮に住み、大神殿を建て、多くの事業に成功し、巨万の富を築きました。その彼が、「主が建てるのでなければ…」 「主が守るのでなければ…」むなしと明言しているのです。それは確かなことでしょう。ましてや私たちのような小さな普通の人生ならば、主も御手でやっていたかないと、むなし結果に終わってしまうのは目に見えています。

家庭も同じで、子どもたちの成長も主の御手によります。子どもには無限の可能性があるので、どこまでも飛んで行って勝利をもたらす「矢」のようです。

家庭を、家族を、そして家も、またそれらを育てる人生も、主に求めて祝福していただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

